

## キャンパス図書館での展示活動について ～戸山図書館の事例報告～

藤原 秀之（戸山図書館担当課長兼所沢図書館担当課長）

図書館はさまざまな学術情報資源を収集・管理し、それを利用者に対して公開することを大きな使命としている。そして公開と言ったとき、それは資料の目録・解題を作成し、その内容を広く一般に周知することからはじまる。つまり図書館（員）からの積極的な情報発信というわけである。この部分を軽視したところに図書館や図書館員の将来は見えてこないだろう。そうした情報発信の手段として、より直接的に利用者に情報を提示する方法に「展示」がある。図書館で所蔵する資料や図書館の活動そのものを紹介する展示は、積極的な情報発信であると同時に、関わった図書館員一人一人の財産となり、その成果は大きな業績であるともいえる。

早稲田大学図書館の場合、創立当初から情報発信手段の一つとして展示を重視し、ほぼ毎年のように展覧会を開催してきた。特に1991年に総合学術情報センターができ、その2階に展示室が設けられてからは、図書館内に「展示委員会（展示部会）」をおき、年数回の企画展をおこなうことを常としてきた\*。

一言に展示と言っても、テーマの設定から出陳資料の選定、さらにはその配置（レイアウト）の決定と解説（キャプション）の作成など検討すべき課題も多い。また、図書館における展示は、館蔵資料を展覧に供するだけでなく図書館（員）が考える過去・現在・未来の図書館のあり方についての見解を述べる場でもある。図書館の蔵書構成や利用動向といった現状を分析し公表することは、来場者（主として図書館利用者）の理解を得る上でも重要である。

さらには図書館以外の機関と連携することで、より広い問題に切り込むこともできる。早稲田大学所沢図書館では、近年そうした他機関と連携した展示をおこなうことで、所属する学生、教員、あるいは地域住民（所沢図書館は地域開放をおこなっている）の関心を集めてきた。

そうした中で、戸山図書館には専用の展示スペースはなく、わずかに施錠式の平置ケースが一つあるだけである。またいわゆる「古典籍」「古文書」と呼ばれるような貴重書の類を多く所蔵しているわけではない。そこで過去には中央図書館で

開催される展示の一部を借用しミニ展示をおこなったり、教員から持ち込まれた企画をおこなったこともある。

ただ、ここ数年は戸山図書館独自の視点から展示を企画しており、その際、中央図書館から資料を借用することもあるが、展示の中心となる資料は戸山図書館所蔵のものである。

一覧をご覧いただければわかるが、企画の多くが和洋の近代資料である。これらの資料は戸山図書館として購入したものや、寄贈を受けたものであり、通常の閲覧に供することよりも、標本資料として後世に残すとともに、授業等での活用を期待して収集しているものである。

2018年11月開催の「どらくろの時代」（～1月）、2019年5月に開催した「速報展示 さらば、三朝庵！」（～7月）などは戸山図書館の特色が顕著に現れた展示であった。



『どらくろ いくさ物語』より

「どらくろの時代」は有名な漫画「のらくろ」のパロディ作品で、「のらくろ」と同時代に発表された「どらくろ」を展示の中心に、関連作品をあわせ展示することで、当時の少年漫画の世界をコンパクトにまとめたものである。「のらくろ」自体がアメリカの漫画「Felix the Cat」を参考にしたといわれており、猫を主人公とした「どらくろ」はいわば先祖返りしたパロディとも言える。戸山図書館は文学学術院の教育、研究への貢献を役割の一つとしており、近現代の文化、芸術、風俗などの研究に際して一次資料となりうる図書、雑誌などの収集もそのためのものであり、「どらくろ」もその一つである。



「さらば、三朝庵！」展示風景

一方「三朝庵」展は、2018年7月末で閉店した馬場下町の老舗蕎麦店「三朝庵」に関連した資料の展示である。資料といっても図書は参考程度で、実際に店舗で使用されていた暖簾や幟、食券、ドンブリ、メニューなどが展示の中心である。なかでも天板に厚手の一枚板を用いたテーブル2卓を会期前から「閲覧席」として利用に供していたこともあって、大いに注目を集め会期を延長するほどであった。会期中に新聞社2社から取材を受けたが、この展示はなにも物珍しさだけを狙っておこなったわけではない。大隈家御用達の看板を掲げ、早稲田大学の学生、教員たちの思い出がつまった老舗には、大学や地域に関連した多くの資料が収蔵されていた。今回、文化推進部と協力し、その多くを会津博物館、歴史館、中央図書館、戸山図書館などにご寄贈いただいた。特に戸山では「今はまだ歴史的な意味合いを持っていないとも、将来必ず必要になる」資料を中心に寄贈いただいた。それが今回展示した直近まで使用していた資料群である。「速報展示」とした理由は、閉店後間もない今だからこそ人々の記憶も新しく、それを記録として残すことができれば、早稲田大学の新たな資

料として後世に残すことができると考えたからである。会場に置いた感想ノートには、三朝庵に通ったという卒業生はもとより、現役学生からのコメントも寄せられている。その一言一言が将来に向けたメッセージであり、資料である。今でしかできないことをすぐにやる、それぞれの課員が資料に対する興味と見識を持ち、フットワーク軽く対応できる戸山図書館だからできた展示だと自負している。これからもキャンパス図書館ならではの展示を展開することで、積極的に情報発信を続けてゆきたい。

\* 図書館における展示活動については、拙稿「図書館で展覧会を開く」(『WASEDA ONLINE』2009年7月8日号)参照。  
<https://yab.yomiuri.co.jp/adv/wol/culture/090708.html>

## 戸山図書館におけるおもな展示 2015年～2019年

- 東西絵本の世界～縮緬本とイギリス絵本～  
 (2015年1月13日～3月13日)
- 俳諧の世界～中央図書館企画関連展示～  
 (2015年3月25日～4月23日)
- 中央図書館資料トーク関連展示  
 (2015年9月25日～10月29日)
- 和歌と神道～中央図書館企画関連展示～  
 (2015年12月14日～12月25日)
- 絵図に見る200年前の戸山キャンパス  
 (2016年3月7日～4月28日)
- 源氏物語で遊ぶ (2016年6月6日～6月30日)
- 夏休みの宿題～図書館資料で昆虫採集、植物採集～  
 (2016年9月13日～10月13日)
- 実は私も文キャン出～卒業生の中の芥川賞・直木賞作家～  
 (2017年4月10日～4月26日)
- The Telling Line 物語るイラスト  
 ～ランドルフ・コールデコットの絵本～ (2017年6月)
- 古今注展観 (2017年12月11日～12月22日)
- どらくろの時代  
 (2018年11月30日～2019年1月11日)
- 双六～時代を映すサイコロ遊び～  
 (2019年1月18日～2月9日)
- 早稲田の歌 (2019年3月19日～4月23日)
- さらば、三朝庵!～速報展示～  
 (2019年5月10日～7月12日)
- 怖いな、怖いなあ・・・～2次元に彷徨う妖怪、幽霊たち～  
 (2019年7月26日～8月31日)
- 戸山図書館スタッフのオススメ!  
 戸山図書館スタッフの「タイトルが気になる本」  
 (2019年10月7日～10月11日)